

編集後記

『戦史研究年報』第 28 号をお届けします。

本号は「論文」として、戦史研究センターに所属する研究者による令和 5 年度の調査研究成果の中から 3 本を掲載しました。庄司論文は、近代日本の同盟の特徴を概観するとともに、応援義務に着目して分析したものです。工藤論文は、海上自衛隊草創期の航空機整備員教育に関して航空自衛隊との統合から分離へと移行した経緯を考察しています。進藤論文は、アメリカ陸軍航空が対日戦においてどのような戦訓を得て、それに基づいて航空機材および戦術をどのように変更して対応したのかを検討したものです。

巻頭の「口絵」では、掲載論文のテーマに関連付けた史料として、10 月の台湾沖航空戦において過大戦果を報告した電報および本土空襲を開始した B-29 爆撃機搭乗員の捕虜からの聞き取り調査書を紹介しました。

「国際会議参加報告」として、ポルトガルで開催された第 49 回国際軍事史学会大会の概要を紹介するとともに、同大会において千々和主任研究官が発表した論稿（英文）を掲載しました。同発表において、戦後、安全保障政策や政治と日本の自衛隊の関係はどのように変化したのかを考察しました。

「活動報告」には、令和 6 年に戦史研究センターが実施した諸活動、戦後史関連の戦史史料編さん事業の概要、史料閲覧室での閲覧状況等を記載しました。

なお、前年度に海外から招へいたした研究者が研究会で発表いただいた論文を例年、「研究会記録」として掲載しておりましたが、令和 5 年度は諸般の事情により該当する論文がなかったため、本号では省略しました。ご了承ください。

最後になりましたが、本号発刊のためにご協力いただきました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

(進藤 裕之)